

会議状況等報告書							報告者	小高 清楓			
会議の名称		令和6年度第1回おおぶ文化交流の杜図書館運営委員会									
日 時		令和6年6月24日（月） 午後1時30分～午後3時00分						場所	おおぶ文化交流の杜図書館 サポーター室2		
出席者	委員	松岡 礼子	加古 有子	鈴木 善博	神田 由美	赤堀 路世	竹内 紀人	澤田 智子			
		○	○	○	○	○	○	○			
	事務局	近藤 部長	田中 課長	細谷 係長	小野 主事	小高 主事	村上 図書館長	小倉 マネージャー			
		○	○	○	○	○	○	○			
傍聴者 0名											
内容											
1. 委員・事務局自己紹介 席順に委員・事務局自己紹介 新規委員：澤田智子委員 2. 委員長・副委員長選出 委員長に松岡委員、副委員長に加古委員を選出 3. 館長より、施設概要説明 ・外部データベースが昨年より1コンテンツ追加 ルーラル電子図書館：農業関係のデータベース。調べ学習でも利用可。 ・OPAC、自動貸出機、ICTコーナーのパソコン等の機材は使用から5年経過し、システム更新のため、総入れ替え済み。 4. 議題 (1) 令和5年度第4四半期事業実施報告について ※資料1～5に基づき館長説明 ●令和5年度第四半期施設利用状況 ・入館者数は毎月前年度を上回る。通年でも前年を上回る。一方で貸出点数は下回る。愛知県内の他の図書館も同様の状況である。 ・開館から5年間は来館者数が順調に伸びていたが、コロナ禍から減少した。しかし、最新の設備や各種イベントの開催を行うことで話題を発信し続け、今日の全国的な認知、多方面からの視察につながっている。 ・公民館の利用状況について、吉田公民館、森岡公民館、北山公民館、歴史民俗資料館が前年を上回っており、特に北山公民館の伸びが顕著である。											

●令和5年度第4半期蔵書貸出統計

- ・すべての区分の中で漫画の回転率が最も高い。
- ・形態分類について、一般、文庫、新書の回転率が悪く、暮らし、子育て、シリーズ本、のりものの回転率が高い。
- ・年代別貸出統計より、31～50歳の貸出が多く、13～18歳の貸出が少ない。高齢ほど館内滞在の利用が多く、若者は持ち込み学習の利用が多い傾向がある。

●令和5年度3月末までの地区別登録者数、貸出者数

●令和5年度第4半期事業実施報告

- ・人形劇は毎年12月開催。毎回評価が高く、7月7日の10周年事業でも開催する予定。

●期間中に発生した事故、ご意見

【意見交換】

(委員) 公民館で増えている図書についてはどのような形で選定を行っているのか。

(館長) 公民館から希望図書を募るようにしている。

(委員) 一般書について、回転率が悪いが、41～60歳で多く読まれているのはなぜか。趣味嗜好の変化によるものなのか。

(館長) カードの利用者と本を借りる本人が必ずしも一致しているわけではないので細かいデータが取れていない。

(委員) 年齢を重ねると趣味に変わり購入する傾向にあるのではないか。また、今後、このようなデータを出す際、人口比がわかると分析が容易になるのではないか。

(係長) 今後、大府市の統計も組み合わせた分析も興味深いと思う。

(委員) 登録者を増やすという点において、大府市民の割合を増やすことが大切だと考えている。市民のうち何割が登録しているのか。

(館長) 50%前後である。現在、登録いただいても貸出を行っている人数は年々減少している。そのため、実際にご利用していただけるような工夫が必要だと考えている。

(委員) 本棚の位置関係の都合上、子育て世代の方が一般書に手を伸ばしにくくなっていると感じる。そこで、入口のイベントコーナーのようなブースを設けることで、子育て世代の興味につなげることができたらいいと思う。

また、大活字・点字について、回転率及び51歳以上の貸出冊数の多さから高齢の方が読みやすいという理由で多く読まれているのかなと感じた。高齢の方に滞在していただき、涼しく健康的に過ごしていただくためにも本の充実やアピールをしてもよいのではないか。

さらに、貸出統計において、男女の区別は必要なのか。

(課長) 統計として読み取るためには男女のデータが必要ではあるが、誰もが閲覧できる資料にするかどうかについては検討の余地はある。

(委員) 施設概要の冊数増について、廃棄本を考慮した数字なのか。図書館で廃棄する本

は存在するのか。

(館長) 廃棄本を考慮した数字である。雑誌は3年で廃棄するが、それ以外は閉架書庫に保管している。

(委員) 歴史の変化に伴い、歴史書の中身との相違が生まれると思う。これを保管しておく意義はあるのか。

(委員) 変化が分かることも大切である。しかし、こどもたちが過去の歴史を鵜呑みにすることに関しては気を配る必要もある。

(委員) 過去の本によって、歴史の変化がどのように起こったのかを明らかにすることができ、貴重な資料となる。そのような本を貸し出す際は、図書館スタッフが一言声をかけることで問題を解決することができるのではないか。

(1) 令和6年度事業計画について

●10年連続貸出冊数日本一達成のための重点項目：

①新規来館者の獲得、②市民登録者の増加、③若い世代の図書館への関心の向上

- ・新しいジャンルの講座やイベントを開催するためにも図書館以外でのアンケート収集を行いたい。

- ・図書館見学を通じて図書館の魅力を発信しており、今年度は既に9校中4校の見学が終了している。距離が遠い区域には、図書館の体験見学映像を学校までお持ちして見学会を実施したいと考えている。

- ・タブレットを読書活動に使用することで読書に親しんでもらえるような環境を作ること为目标に、電子書籍「読み放題パック」の導入を行う。複数人が同時に同じ本を読むことができるという利点がある。朝読やご自宅で活用していただきたい。

●図書館イベントについて

【意見交換】

(委員) 電子書籍を使うためのタブレットの使い方などの講座の予定はあるのか。

(館長) 操作確認のために教育委員会へ説明に上がる予定である。

(委員) 大学においてもタブレットや電子書籍の使い方について、操作が困難であるという声があった。できれば不明点について質疑応答ができる環境や、簡単な説明動画があるといいのではないかと思います。

(委員) 電子書籍を借りた場合、来館者数としてのカウントはあるのか。

(館長) 既存の電子図書館については閲覧者数や回数のカウントは可能。しかし、電子書籍と図書館システムがリンクしていない。

(委員) 貸出冊数全国一位のデータには電子書の統計は入っていないのか。

(図書館職員) その通りである。全国図書館の統計の基準には電子書籍は入っていない。

(委員) 来館者以外にアンケートを取る方法としてQRコードを活用するなどすると参加が容易でよいのではないかと。また、アンケート参加者には特典を用意すると参加意欲が上がると思う。

(館長) 外国人の方の来館者も増やしたいと考えているため、大府市のイベントと協力してそのような取り組みを検討してまいりたい。

5. その他

館長より、こどものための雑誌スポンサー制度について説明

- ・電子図書館を充実させるために予算が必要。しかし、現在の資料費は当館の魅力である紙媒体の本に継続して充てたい。そこで新たな予算の捻出が必要。
- ・企業にスポンサーになっていただき、当館で雑誌に使用していた予算を浮かす。
→電子書籍に充てることができる。
- ・近隣の図書館では既に導入済み。
- ・企業が選定した本が図書館に入るわけではない。

(委員) いつから開始するのか。

(係長) 10月開始を目標に市で調整を進めている。

(委員) スポンサー制度の目的をわかりやすくPRを行うと個人や団体など様々なスポンサーが見つかりやすいと思う。

(館長) 大人が読む一般書の電子書籍を入れている図書館はたくさんあるが、実際に足を運び本を借りる方が減らないように、こども向けに特化したサービスにしたい。
また、図書館に来館できない施設や病院の方向けのサービスに発展させていくことができたかと考えている。

(委員) スポンサーの選定は行うのか。

(館長) 大府市の優良広告人掲載基準に則り基準を設ける。

【次回開催連絡】

第2回おおぶ文化交流の杜図書館運営委員会 未定

以上